



5月25日に行われた枕崎消防署の
水防工法講習会(火之神北町)

防災 大災害が起こったら... 「もしも」に備える

未曾有の大災害となった東日本大震災の発生から3か月、私たちは防災について改めて考えさせられています。本市でも「枕崎台風」や「ルース台風」などの大災害に見舞われた歴史があります。いつ起こるかかわからない大災害を乗り切るため、市民一人ひとりが災害への意識を高め、「もしも」のときに備えなければなりません。

大震災から学ぶ

3月11日、戦後最大の災害ともいえる東日本大震災が発生しました。過去の歴史から地震や津波への防災意識の高かった東日本の沿岸地域でも想定を超える津波により甚大な被害を受けました。

今回の大災害を受け、全国的に防災意識が高まる中、本市においても防災計画の見直しが進められています。また9月には大津波を想定した防災訓練を予定しています。

被害拡大を防ぐ 自主防災組織

大規模な災害が発生した場合、電話の不通や道路の寸断などにより、集落が孤立したり、防災関係機関の活動能力が制限されたりする可能性があります。このようなときに力を発揮するのが地域住民で組織する「自主防災組織」です。本市では全76公民館中、54公民館で結成されています。

今回の大震災や平成7年に発生した阪神・淡路大震災でも、救助活動や避難誘導、安否確認などで自主防災組織の活動が被害の拡大を防ぎました。

このように、日頃からよく知っている住民どうしが団結し、

組織的に活動することで、災害による被害を防止・軽減することが期待されます。

また、いざというときの確に活動できる場合、日頃から災害が発生した場合を想定した訓練を積み重ねておくことも大切です。

これから大雨、台風の季節

5月下旬、九州南部が梅雨入りしました。今後、梅雨前線の活発化により各地で大雨となり、河川の氾濫や土砂災害などの可能性が高まること予想されます。また、甚大な被害をもたらす台風にも注意が必要です。



▲昨年の市総合防災訓練で消火訓練を行う自主防災組織の方々

市内の避難所 危ない! と思ったらすぐに避難

第1避難場所 (台風・大雨・洪水等)

避難予定場所	避難地域	電話
健康センター	枕崎地区	72-7176
市民会館	枕崎地区	72-2221
松之尾センター	枕崎地区	72-9289
立神センター	立神地区	72-1693
別府センター	別府地区	76-2010
城山センター	桜山地区	72-2267
金山センター	金山地区	72-9690

被害が心配されるとき、まずは正確な情報を収集することが大切です。テレビやラジオで発表される気象庁からの警報・注意報、市役所などからのお知らせに注意してください。風水害による人的被害を減らすには、早めに避難することが欠かせません。避難勧告や避難指示などの発令があったら、すぐに安全な場所に避難しましょう。

災害に備えて家庭でできること

非常持出品の準備を

家庭でできる災害への備への第一歩として、「非常用持出品」を準備し、リュックサックなどにまとめて保管しておきましょう。

各家庭で最低限準備してもらいたい非常用持出品のリストを左に紹介します。これに加えて目の不自由な方は「緊急連絡カード」、耳の不自由

な方は筆談ができるように「メモ帳」なども用意しておきましょう。また、内部障害のある方は「かかりつけの医療関係の連絡先」や「常用の医薬品」なども用意しておきましょう。

家庭内で緊急時対応の話し合いを

いざというとき慌てないために、防災について日ごろから家庭内で次のようなことをよく話し合っておくことも大切です。

- ・家族一人ひとりの役割分担
- ・災害時の連絡方法、避難場所と避難経路の確認
- ・家の中の危険箇所を確認
- ・非常持出品の定期的な点検
- ・非常備用品の保存状態、使用期限の確認

問合せ 総務課危機管理対策係
TEL72-1111 内線214

非常持出品

家庭で「もしも」の備え準備しておきたい

非常持出袋



携帯用飲料水



1日分一人3リットルを目安に

非常食品



定期的に入れ換える

貴重品



現金・免許証・健康保険証のコピーなど

携帯ラジオ



予備の電池も

懐中電灯



救急用品



常備薬も忘れずに

生活用品



断水時にはウェットティッシュが重宝

衣類



紙製品の下着なども便利

※非常用持出袋セットもあります。

緊急時に防災無線が自動的に起動 全国瞬時警報システム(J-ALERT)

全国瞬時警報システムとは、緊急地震速報やテロ攻撃などの対処に時間的余裕のない緊急事態が発生した場合、衛星通信ネットワークを用いて瞬時に送信し、市の防災行政無線を自動的に起動し、警報を瞬時に伝達するシステムです。

自然災害では、緊急地震速報(震度4以上~)、大津波警報、津波警報が発令されたときに放送されます。

これらの情報が放送されたときは、テレビやラジオをつけて情報に注意し、身の安全を確保して落ち着いて行動するようにしましょう。



津波に対する心得

- ①強い揺れ(震度4程度)を感じたとき、または弱い揺れでも長い時間ゆっくりした地震を感じたときは、直ちに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。
- ②地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。
- ③津波注意報でも、海岸、河川は危険なので水泳や釣りは行わないでください。
- ④正しい情報をラジオ、テレビ、防災無線などで入手しましょう。
- ⑤津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報が解除されるまで海岸・河川に近づかないようにしましょう。
- ⑥車での避難は、渋滞になり、防災活動や避難の妨げになるおそれがありますので、持ち物は最小限にして徒歩で避難しましょう。